



# 作業手順書



オアシス東日本研修センター

## 1. 洗車及び鉄粉除去

ボディに付着した泥汚れなどを「ガラスダスター・シャインピンク」で拭き取る。汚れがひどい場合は水でボディ全体を洗車してください。

必要に応じてスーパーセラミックを使用して「鉄粉除去作業」も実施してください。

新車等でボディに付着しているのが、埃程度であれば「2、マスキング作業」に進んでください。

### 「注意事項」

洗車した場合は、水切りを完全に実施してください。クォーツガラスコーティング主剤は水に触れると十数秒で硬化してしまいます。そういった反応が起きると、白い斑点のようになってしまいますので乾燥（水切り）作業は丁寧に行ってください。

## 2. マスキング作業

フロント及びリヤウインドガラス・左右ドアガラス・PP素材・その他ポリッシングにより傷つける恐れのある部分についてマスキングしてください。



## 3. 定着作業 (オプション)

クォーツガラスコーティング主剤を「仕上げ用専用クロス」に染み込ませて、コーティングする面にムラ無く塗り込んでください。

軽微なピッチ・汚れ・水垢等はこの作業でとれます。埃等の軽微な汚れであれば、付着していても問題はありません。

### 「注意事項」

- ・指触乾燥後に再度同じ部分にこの作業は行わないで下さい。吹き筋跡が取れなくなる事があります。
- ・エンブレム周辺などの複雑なところは、指触乾燥前に乾いた「仕上げクロス」で吹上げてください。



## 4. ポリッシング作業 (オプション)

専用コンパウンドを使用してボディ全体を磨いてください。この磨き作業の目的は細かいキズ取り、ボディ表面の脱脂が目的です。したがって現車の状況に応じてコンパウンド及びバフを下記の目安にしたがって使い分けてください。



### コンパウンドの特徴と使用方法

- クォーツ10** コーティング表面の研磨・剥離に適し、キズをカットする硬化に優れています。主に深いキズのスポット研磨に使用します。
- クォーツ16** ある程度の小キズをカットし、酸化・劣化した塗膜を除去するクリーニング効果があります。
- クォーツ8** 塗膜表面を鏡面状態に仕上げる効果があります。手触りがよく、光沢も出る仕上げ剤です。

### クォーツ専用バフの特徴と使用方法

**クォーツ専用パイルバフ** 乾式ポリッシング用の羊毛バフで、深いバフ目を入れずに塗膜をクリーニングする効果があります。

- 【注意事項】**
- ・絶対に湿らせないでください！（羊毛がねてしまい、効果が得られません。）
  - ・バフを傾けず、平面で磨くこと。

**クォーツ専用スポンジバフ** バフ目が付きにくく、エッジ部分で均一なポリッシング効果を出します。

- 【注意事項】**
- ・バフを傾けず、平面で磨くこと。
  - ・コンパウンドを付け過ぎないこと。（1回につき2cc程度）



## 5. 脱脂 & 最終チェック

「ファイナルウォッシュ」または「スタビライザ 44」をたっぷり染み込ませたクロスで拭き上げ、その後水を含ませ固く絞った「スポンジクロス」で拭き上げる。最後に乾いた「仕上げ用専用クロス」で乾拭きを行います。

(研磨作業中に付き過ぎたクォーツコンパウンドや、マスキングテープの跡・手垢・指紋の跡などを完全に除去してください。)

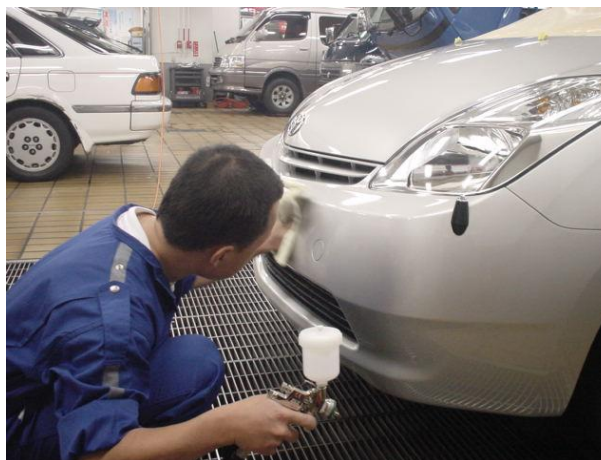
※最終チェックは、明るい場所で行ってください。工場内が暗い場合は照明を使用するか、表に出して点検しましょう。

## 6. コーティング作業 (吹付け)

(1) スプレーガンにコーティング主剤を入れボディ表面に吹き付けます。(×2回)

※注入時にビン内の主剤が白濁していないかどうか注意深く点検してください。

※ ボディ表面から30Cm程度離して、ボディ表面に対して出来るだけ直角になるようにムラなく吹き付けてください。



(2) コーティング主剤をウェットでスプレーし、溶剤が揮発して指触乾燥するまでの間に、噴きすぎた部分については乾いた仕上用クロスでスプレーした部分を乾燥するまで拭き上げてください。この作業は、拭き残しのないように丁寧に行ってください。(斜めから見ると分かりやすい) 一回に多くの面積をやらないで 50センチ柵位に区切って実施すると吹き残し等のミスが少ない。





(3) (2) 完了後、すぐに2コート目を吹付けます。(作業要領は(2)と同じです。)

※ 1コートに使い切る量の主剤(100~200cc)をカップに入れてください。

入れすぎると作業中にカップ内で白濁する場合があります。白濁したコーティング剤は全く効果を発揮しません。特に湿気の多い時には充分注意してください。

※ 塗装の際は、必ずマスクを使用してください。

#### 「注意事項」

- 自動車のボディの表面温度が40℃を超えてくると、QGC剤がレベリング前に揮発していき、白いモヤがかかったようになってしまいます。  
表面温度が高いときはQGCを施工しないでください。
- QGC剤がビンの中やカップの中で硬化してくると白濁します。特に湿度の高い梅雨時・夏場は注意してください。白濁していた場合はQGC剤を破棄し、コーティングガンを手早くガンクリーナーで洗浄してください。
- コンプレッサーからエアホースにかけて水分や油分が混入していないか十分チェックしてください。特にエアホース内の空気差で結露が発生する場合がありますので、念のため、手元にもフィルターをつけられることをお奨めいたします。
- コーティング施工後に下地のキズなどの不具合を発見した場合は、その部分だけを第4行程「ポリッシング作業」からやり直してください。QGCを重ね塗りしてもムラや段差はできません。

## 7. ガンの洗浄

(1) 吹付け作業が完了したら速やかに使用したガンは、専用ガンクリーナーで洗浄してください。

※ すぐに洗浄しないとポリシラザンがガン内で硬化しガンに悪影響を与えます。

※ 残った主剤は、絶対にビンに戻さないでください。主剤が使えなくなります。



## 8. 平滑作業

指触乾燥終了後（吹付け完了30分～60分）「クォーツ8」と「クォーツ専用スポンジ」を使用して、ボディをポリッシングしてください。同時に不具合がないかチェックを重ねて施工してください。この作業は、クォーツガラスコーティングのスプレー施工による表面の凸凹をポリッシングによってさらに平滑に加工し、完全硬化後の汚れの付着をさらに軽減するとともに、納車後の塗装面の手触りをよくするものです。



## 9. クォーツガラスボディコーティングの材料・備品等

### (1) 主剤（コーティング剤）

常温で大気中の水分と反応し、無機質の『シリカガラス（ $\text{SiO}_2$ ）』を形成する。一液タイプのコーティング剤です。汚れ防止を目的とし、密着性にも非常に優れており、様々な用途への応用が可能です。

※ 開封後は、窒素ガスを封入して冷蔵庫内で保管してください。（使用前に常温に戻す）



主剤 Plus 0.5%



主剤 HQPlus 1.0%

### (2) ガンクリーナー（4ℓ）

コーティング用ガン専用のクリーナーです。コーティング剤使用後は速やかに本液で洗浄してください。時間がたつと主剤が白化してガンをダメにします。

※コーティング用ガンの洗浄には本液以外の溶剤は使用しないで下さい。



### (3) クォーツコンディショナー（業務用）（20）

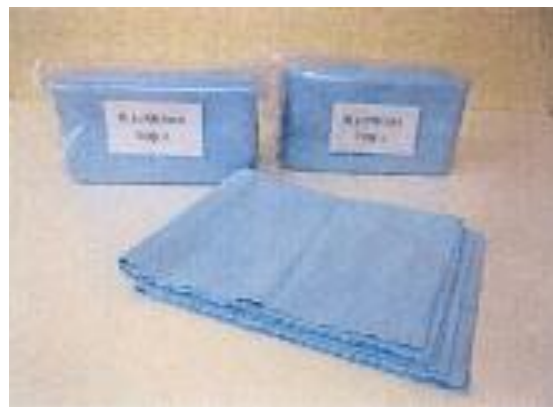
クォーツガラスコーティングのスプレー施工後、30分以上経過した後平滑作業が完了したら、コンパウンド等の表面汚れを除去します。約5～10倍程度に希釈しご使用ください。（十分に泡立つ状態がよい）

乾燥しないうちに、十分な水で洗剤を洗い流してください。（完全に洗い流されるとボディ表面は、完全な親水状態になります）



### (4) 仕上げ用クロス及び水拭き用クロス

特種繊維を使用したクォーツガラスコーティング専用クロスです。タオルキズが付きにくいいため、定着作業に最適です。水拭き用クロスは、市販のセーム皮が最適です。



### (5) ガラスダスター・シャインピンク

マイクロメートル程の極細繊維で編みこまれた拭き取り専用のクロスです。

タオルキズが付きにくいいため、親水促進剤の拭き取りや、ファイナルウォッシャーの拭き取りに最適です。





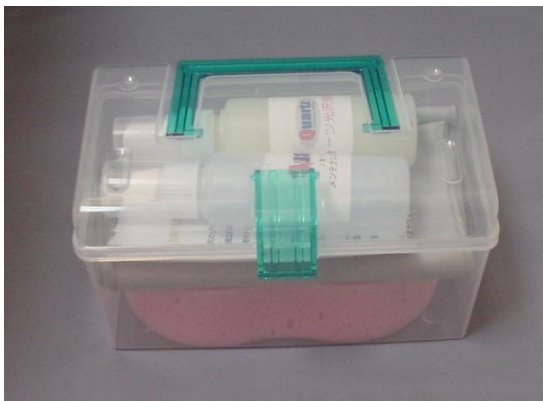
## (6) メンテナンスクリーナー

クォーツガラスコーティングの効果を長期的に保持するために、1年に1回程度のメンテナンスが大切です。埃、泥等はもちろん、鉄粉、タール、ピッチ、が時間とともにボディ表面に付着いたします。

このメンテナンスキットは、日常洗車等お車のお手入れのときにご使用ください。

### ※ キット内容

- (1) 濃色車用・・・洗車用スポンジ・マイクロクロス・光沢保護剤・ドットクリア
  - (2) 淡色車用・・・洗車用スポンジ・マイクロクロス・光沢保護剤・専用クリーナー
- ドットクリアは、雨水や水道水に含まれる不純物がボディ表面にこびり付いたものを溶かす強酸性の液体です。注意書きを確認の上ご使用ください。



# 作業手順書の解説

## 1. 洗車及び鉄粉除去

- ボディに付着した泥汚れなどを「ガラスダスター」で拭き取ります。  
汚れがひどい場合は、水でボディ全体を洗車してください。  
※ ポリマワックス加工や、ワックス等油分がある場合は、「スタビライザ44」を使用してください。
- スーパーセラミックを使用して、ボディに付着している鉄粉を除去してください。  
一般的には新車であっても鉄粉はある程度付着しているのが普通です。  
埃程度であれば2の「マスキング」作業に進んでください。

### 注意事項

- ・ 洗車した場合は、水切りを完全に実施してください。
- ・ クォーツガラスコーティング主剤は、水に触れると十数秒で硬化してしまいます。そういった反応が起きると、一見するとウォータースポットのようになってしまいますので、乾燥作業は丁寧に行ってください。

## 2. マスキング作業

- クォーツガラスコーティングは、密着しないものはありませんが、車の場合についてお勧めできない部分下記3種類です。それ以外はマスキングする必要はありません。
  - ①ウインドウガラス 透明な素材への施工は非常に手間がかかる上、ドライバーの視界に悪影響を与える恐れがあります。また、ガラスの上にガラス膜を重ねてもあまり効果は期待できません。
  - ②PP素地 発泡形成されているため、年式の古い車などは表面が荒れています。そのため施工しても、後々汚れの落ちない部分が出てくる恐れがあります。塗装してあるPP部品であれば心配はありませんが、新車などの場合は一部、塗料が硬化していないものがありますので、注意が必要です。
  - ③ワイパーゴム 施工することで、FガラスやRガラスに傷をつけることがあります。

## 3. ポリッシング作業

- 専用コンパウンドを使用してボディ全体を磨いてください。  
この磨き作業の目的は、細かい傷をとり、ボディ表面の脱脂が目的です。したがって現車の状況に応じてコンパウンド及びバフを下記の目安にしたがって使い分けてください。  
コンパウンドの特徴と使用方法
  - ・クォーツ 10 コーティング表面の研磨・剥離に適しキズをカットするのに優れています。
  - ・クォーツ 16 ある程度の小キズをカットし酸化、劣化した塗装膜を除するクリーニング効果があります。
  - ・クォーツ 8 ほとんど研磨力はありません。吹付け時のザラザラをとる程度です。

## 4. 脱脂・最終チェック

- 研磨作業で残ったコンパウンドや、マスキングテープの糊等、手垢、指紋などを、ファイナルウォッシャーを使用して完全に拭き取ってください。
- コンパウンド等が付着した状態で施工すると、はじきの原因となります。

### 脱脂作業手順

- ① 仕上げ用ウエス（又はガラスダスター）にファイナルウォッシャーをたっぷりと含ませ、パネルを丁寧に拭きあげます。表面に油分があると「はじき」がでます。
- ② ファイナルウォッシャーが乾燥しないうちに、水を含ませたセーム皮等で拭きあげます。（水溶性なので水拭きで簡単に取れます）
- ③ 一回り①②が完了したら、乾いた仕上げ用クロスで、全体を乾拭きします。同時にボディ全体を入念にチェックしてください。

## 5. コーティング作業

- 冷蔵庫で保管してあった主剤は、拭きつけ1時間位前に冷蔵庫から出して液が常温になるようにしてください。
- ビンの中が、白濁していないか明るいところでよく確認してください。白濁しているものは、使用できません。（ガラス化にならない）
- スプレー途中で、はじきが発生した場合は、仕上げクロスで、その部分をよく拭き再度、スプレーしてください。はじきが出なければOKです。
- 一度に多くの面をスプレーせず。50センチ平方メートルくらいずつ区切って吹付けるのがコツです。（拭き漏れがないようにするためです）
  - 1パネル毎、2回拭きつけ、その都度しっかりと定着作業を実施してください。

### 主剤の使用量の目安

軽自動車	小型車	中型車	大型車	ワゴン車
300cc	350cc	400cc	500cc	600cc

※ 自動車の車体表面温度が40度Cを超えているような場合は、施工しないでください。

※ 温度が高いと、定着作業前に溶剤が揮発してしまい、白いもやがかかったようになることがあります。

※ カップに注いだ主剤は、余らさないようにしてください。

万一、余った場合でも、ビンには絶対に戻さないでください。

ビンの中の分まで、全部だめになる可能性があります。

- ・ 吐出量→全閉から0.5～1.0回転開ける
- ・ パターン→全閉から1.5回転開ける
- ・ エア圧力→2.0Kg
- ・ ガン距離→約20～30Cm
- ・ ガンスピード→2m/S
- ・ 重ね 4/5

## 6. 平滑作業

- 施工後、約1時間経過したら、専用コンパウンドと専用バフを使用してボディ全体を、ポリッシングしてください。(吹付けたままでは、表面がざらついているので汚れがつきやすくなります。)

コンパウンド

クォーツ 8

バフ

コーティングバフC&F

## 7. 最終仕上げ

- 平滑作業終了後、水で約5～10倍に薄めた「業務用コンディショナー (2L)」を使用し付着している、コンパウンド等をキレイに洗い流してください。

業務用コンディショナー (推奨です) の代わりに、親水促進剤を5～10倍からに薄めたものでもかまいません。

※ 洗車後は、水滴の残らないように丁寧に拭き取ってください。

※ 納車時には、必ず注意事項の書いた書面を、説明とともに手渡してください。

※ 施工時の状態を持続するためには、メンテナンスが必要なことを説明してください。